

無法地帯行き 集団痴漢列車

——不審者だらけの危険な車両に、少女ひとり……

都市伝説が好きな少女は
終点でも乗客が降りない
謎の電車の噂を知り

あまり治安の良くない
夜の地下鉄に内緒で乗って
該当の駅を見に行ってしまう

少女にとっては
終点で降りたあと
眺めて探すだけの
安全な探検であり

目的地に向かう途中の
車内など全く警戒して
いなかった

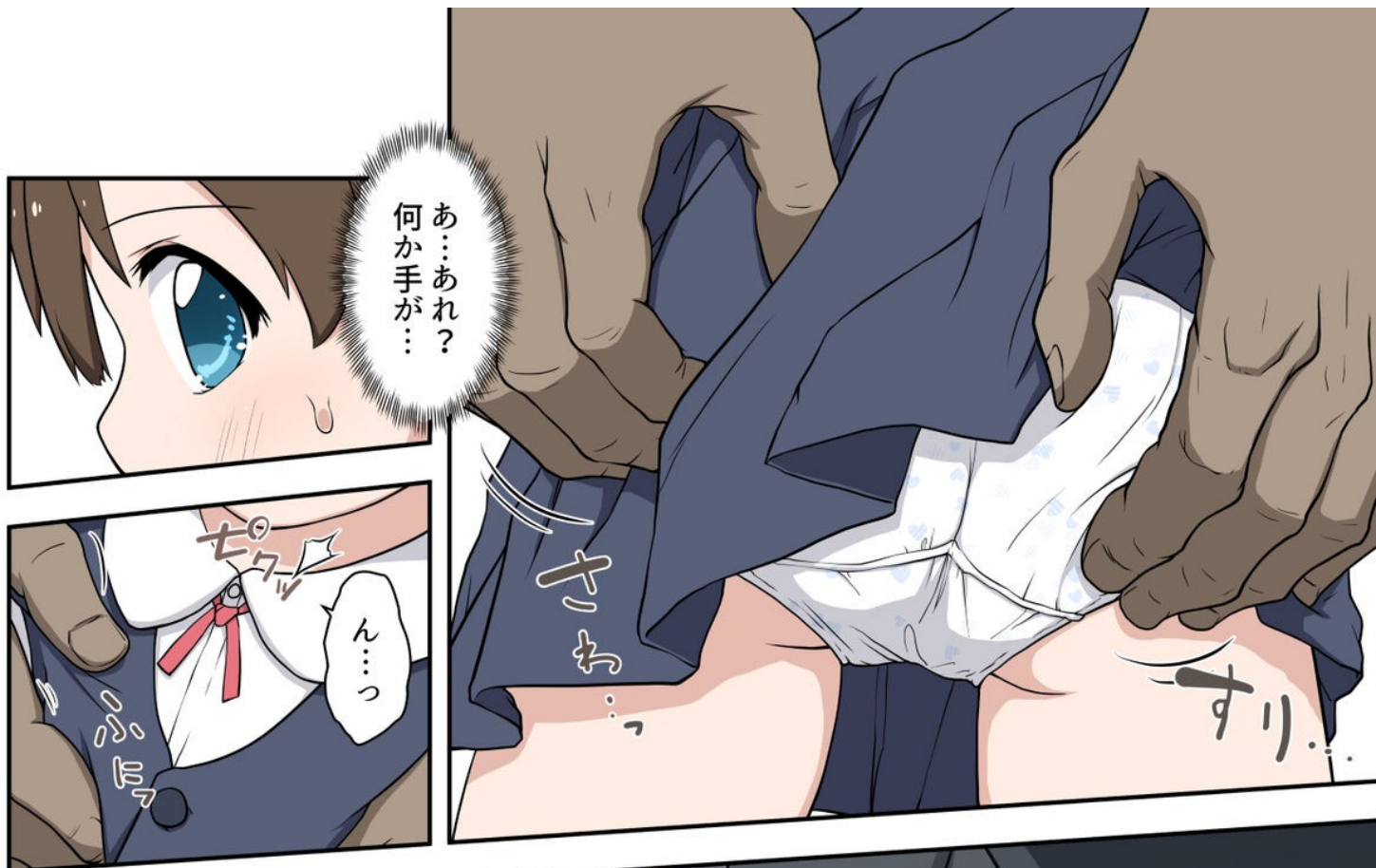


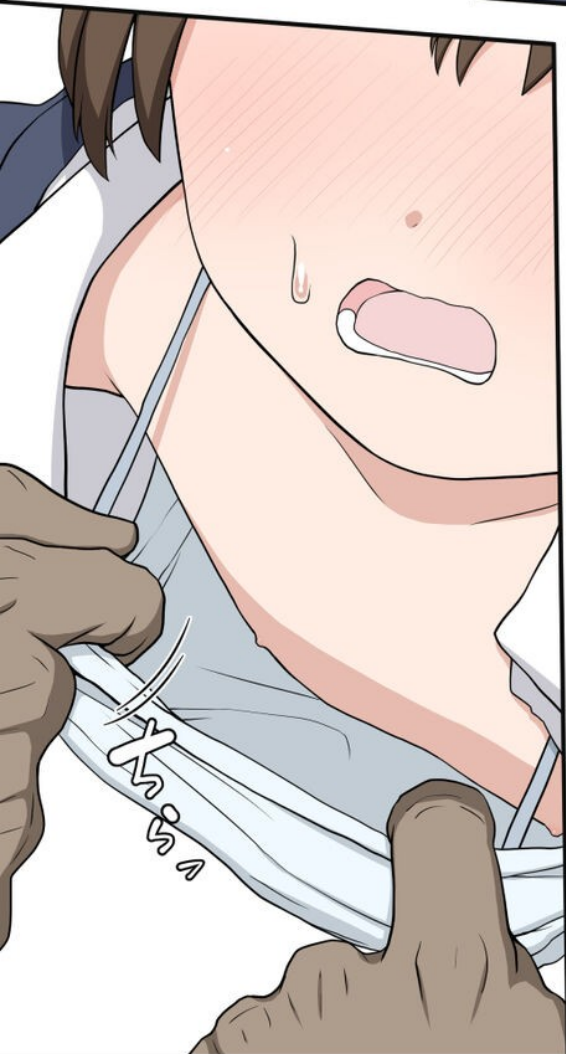
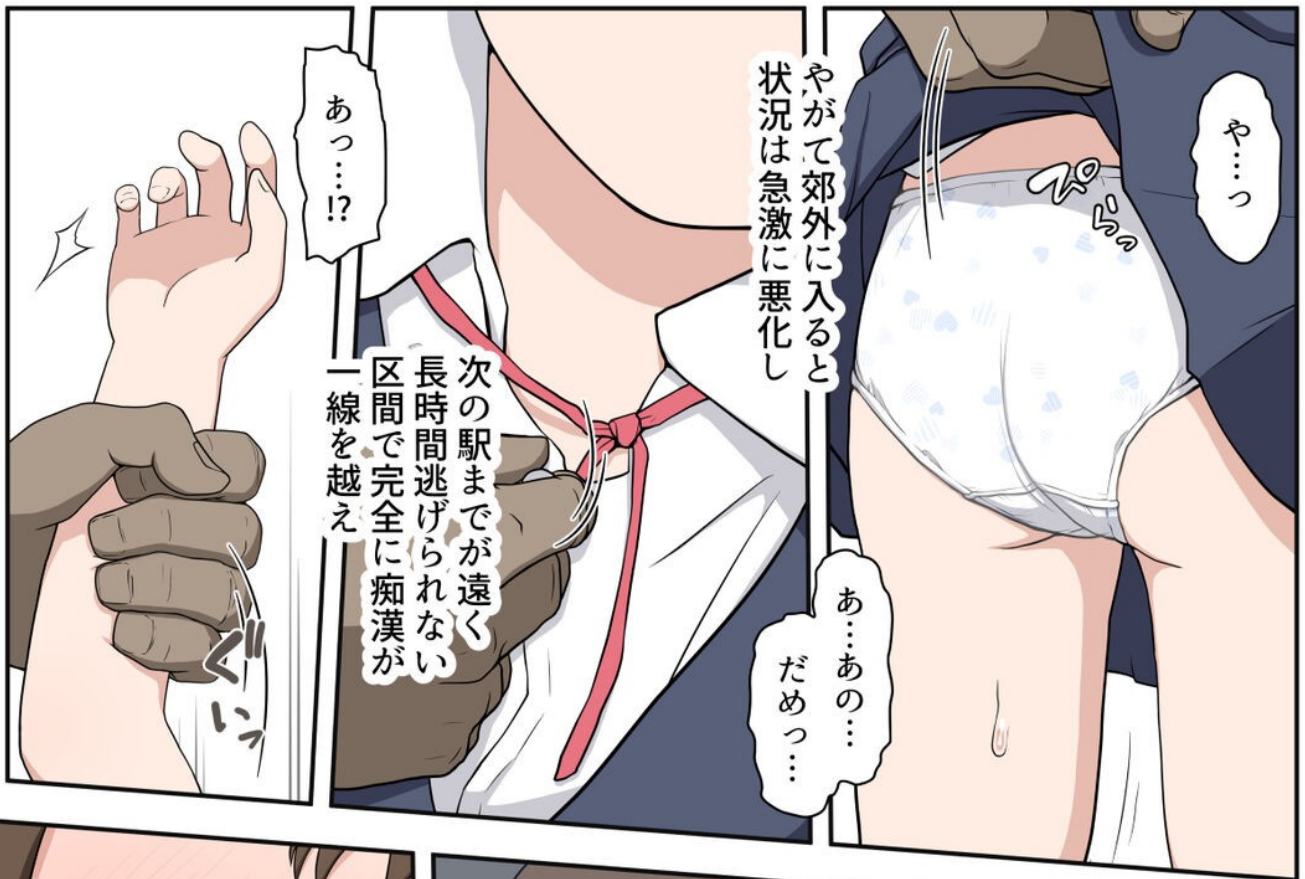
小柄な少女は人混みに
埋もれると何も見えず

終点に近づくほど
ガラ空きになっていく
暗い地下鉄の中で

自分の周囲だけが
混雑している不審な
状況に気づけぬまま
徐々に道を塞がれていく







ひらひらとした短めの
スカートの最初から
殆ど何も守れてなく

あ……う……

む
にっ

上着を脱がされた
上半身には簡単に
男達の手が侵入し

や……っ

モソ

モソ

ついに服の中にまで
及んだ痴漢は少女を
執拗に追い詰めていく

ん……っ

あ……あの……
ダメ……

ガ
バ
ッ

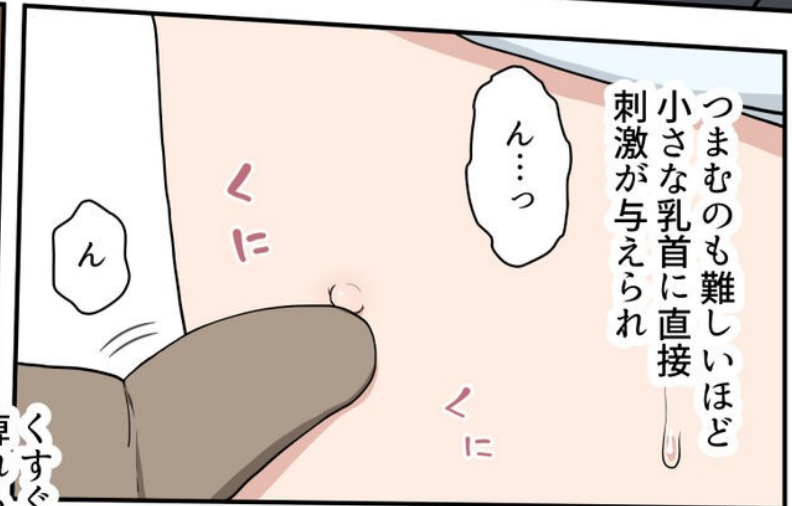
おっ
!?



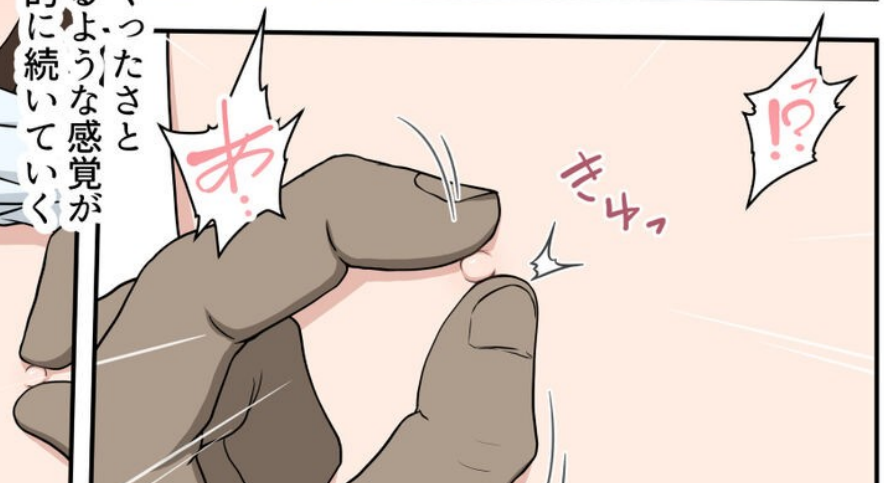
とうとう肌着まで
捲られると色白で
平坦な胸が露わになり



くすぐったさと
痺れるような感覚が
強制的に続いていく



つまむのも難しいほど
小さな乳首に直接
刺激が与えられ



しばらく上半身への
刺激が続いた後

不意にスカートを
腰のあたりまで
捲り上げられてしまい

下着を丸見えにされた
無防備な下半身が
危機に晒されていく



未知の強い刺激に驚き
少女は身をよじって
逃れようとするのだが

まだ危機の大きさを
理解出来ず遠慮がちに
行われる弱い抵抗は
当然何の効果も無く

反応すればするほど
弱点を知られてそこを
重点的に責められ
状況は悪化していき

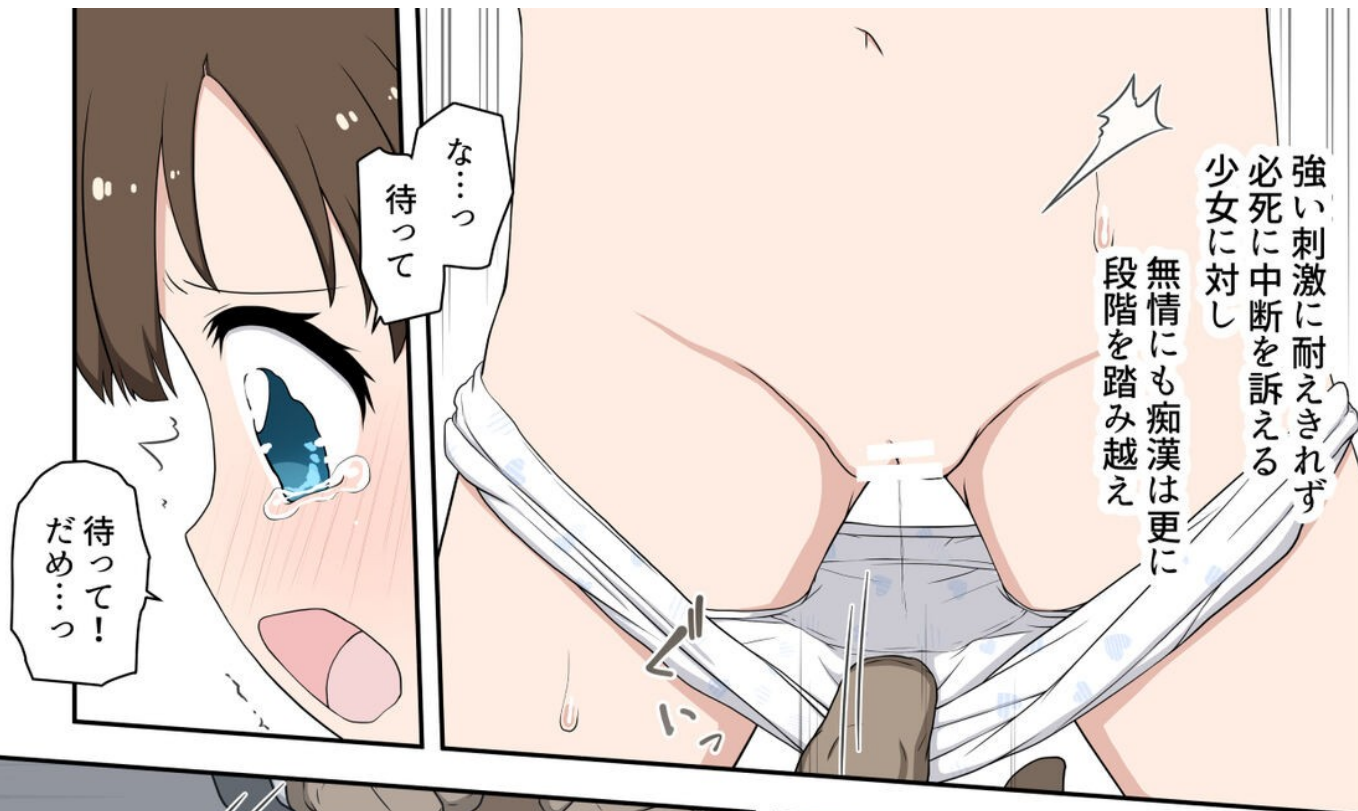
や…
あう…

とうとう下着の中にまで
痴漢が及んでしまう

あ…っ
だめっ

だめっ

ふー
にっ



もう何も守る物の無い
丸出しの小さな性器に
男の指が触れると

穴があるかも
分からないほど
狭かった入り口が
少じずつ押し広げられ

とうとう少女は
膣内にまで痴漢に
侵入されてしまう

やだ...っ
や...っ

あまりにも強烈な刺激に
少女は思わず悲鳴をあげ
逃れようとするのだが

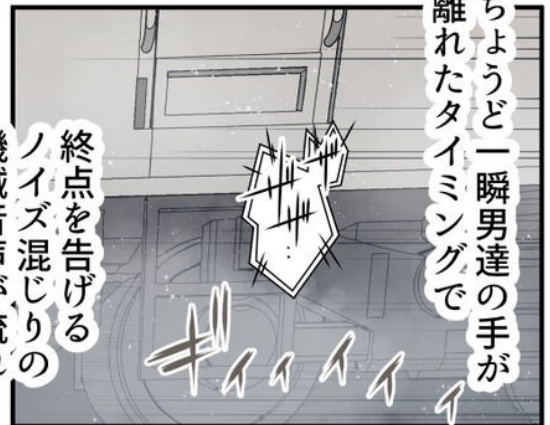
四方から捕まれた体は
足を閉じることも
許されず

そのまま男の指に
膣内の敏感な部分を
執拗に擦り上げられていく



必死に耐えてきた分
抑えたバネが弾ける様に

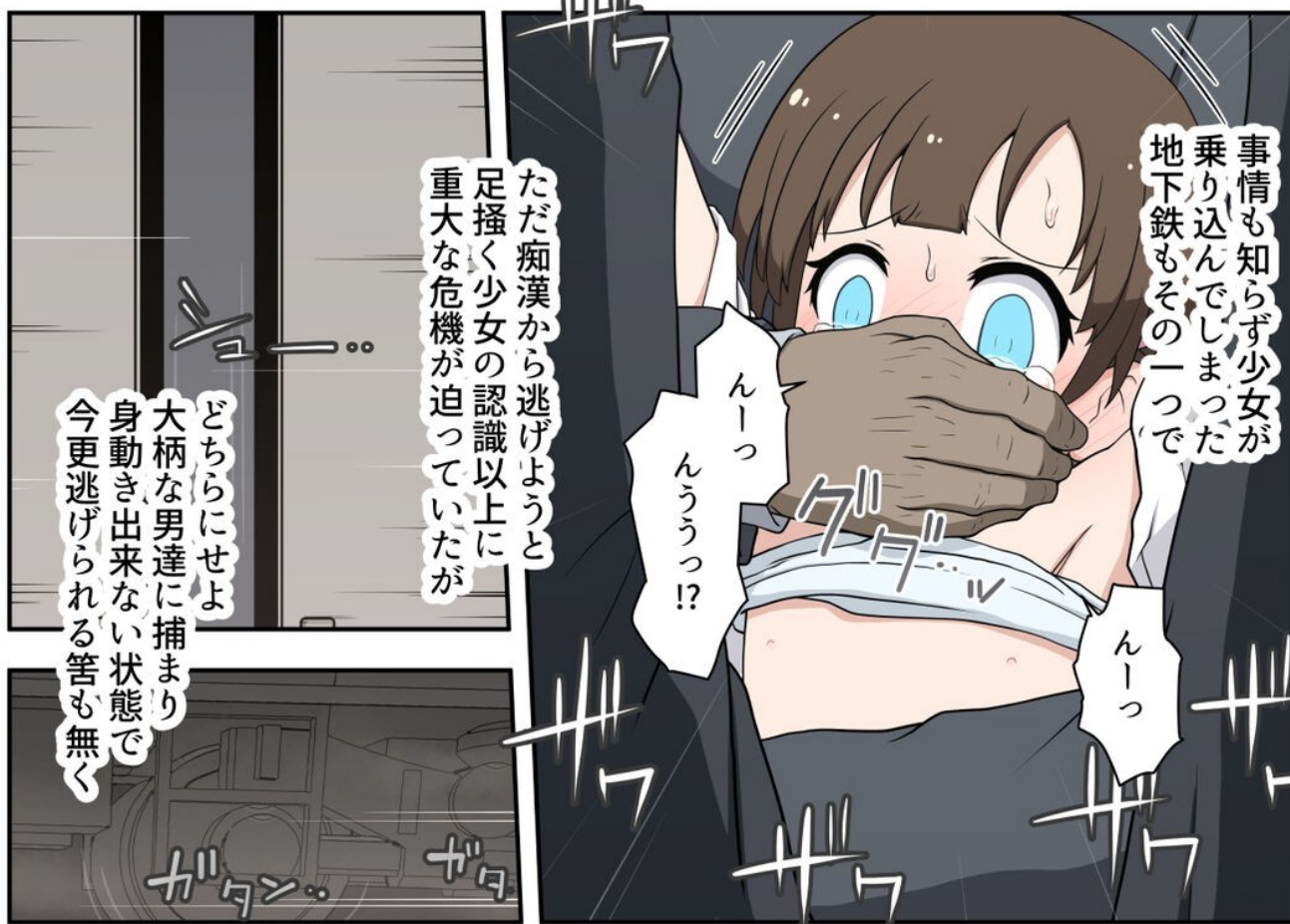
強烈な絶頂が少女を襲い
華奢な体が跳ね上がる





少女の探していた
終点でも乗客の
降りない電車は

表向き廃線となつた
治安の悪い地域へ
そのまま運行している
非合法なものであり



事情も知らず少女が
乗り込んでしまった
地下鉄もその一つで

んーっ
んううっ!?

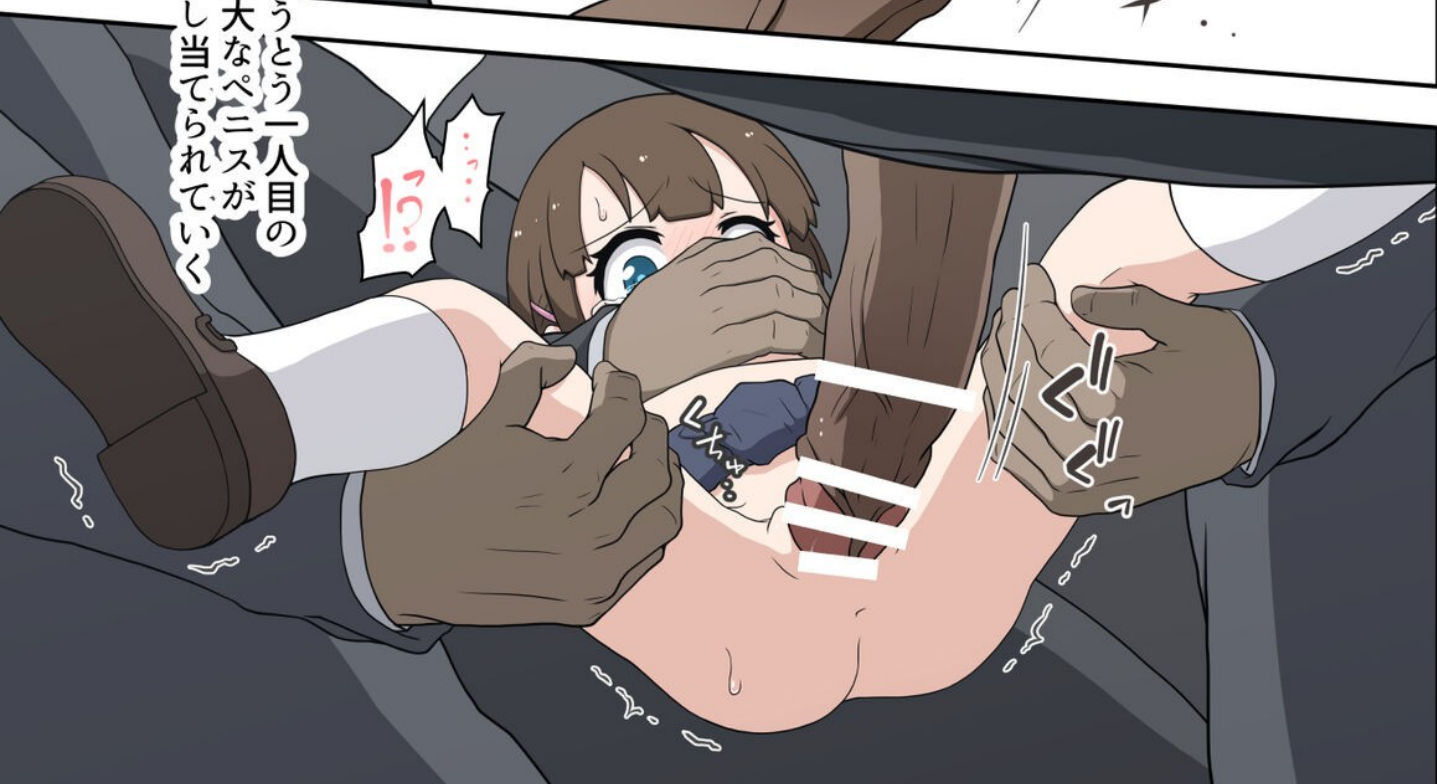
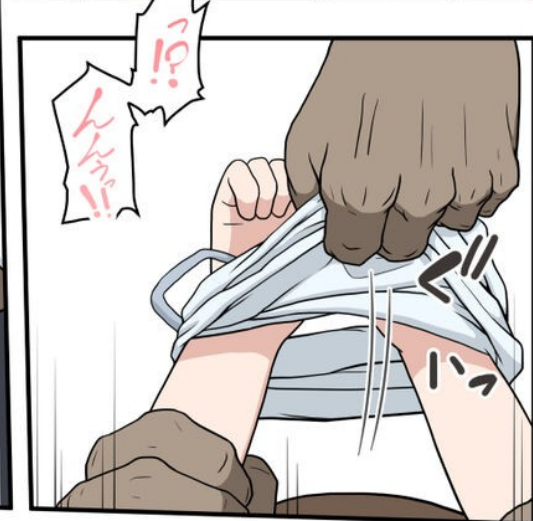
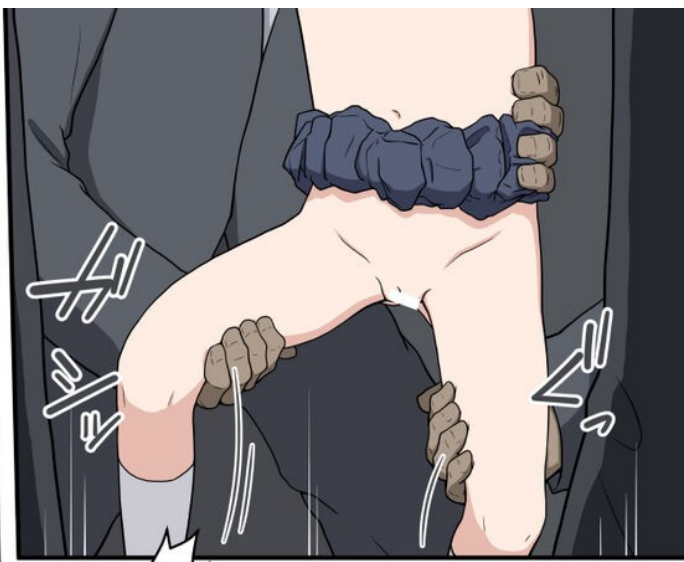
ただ痴漢から逃げようと
足掻く少女の認識以上に
重大な危機が迫っていたが

どちらにせよ
大柄な男達に捕まり
身動き出来ない状態で
今更逃げられる筈も無く



無情にも扉が閉じ
逃げ出す最後の
チャンスを失うと

スラム化した
旧地区へと電車が
走り出してしまふ



小柄な体には
明らかにサイズの
合わない男の巨根が

無理やり小さな
入り口をこじあけ

先端をねじ込んでいき

一瞬力を溜めると

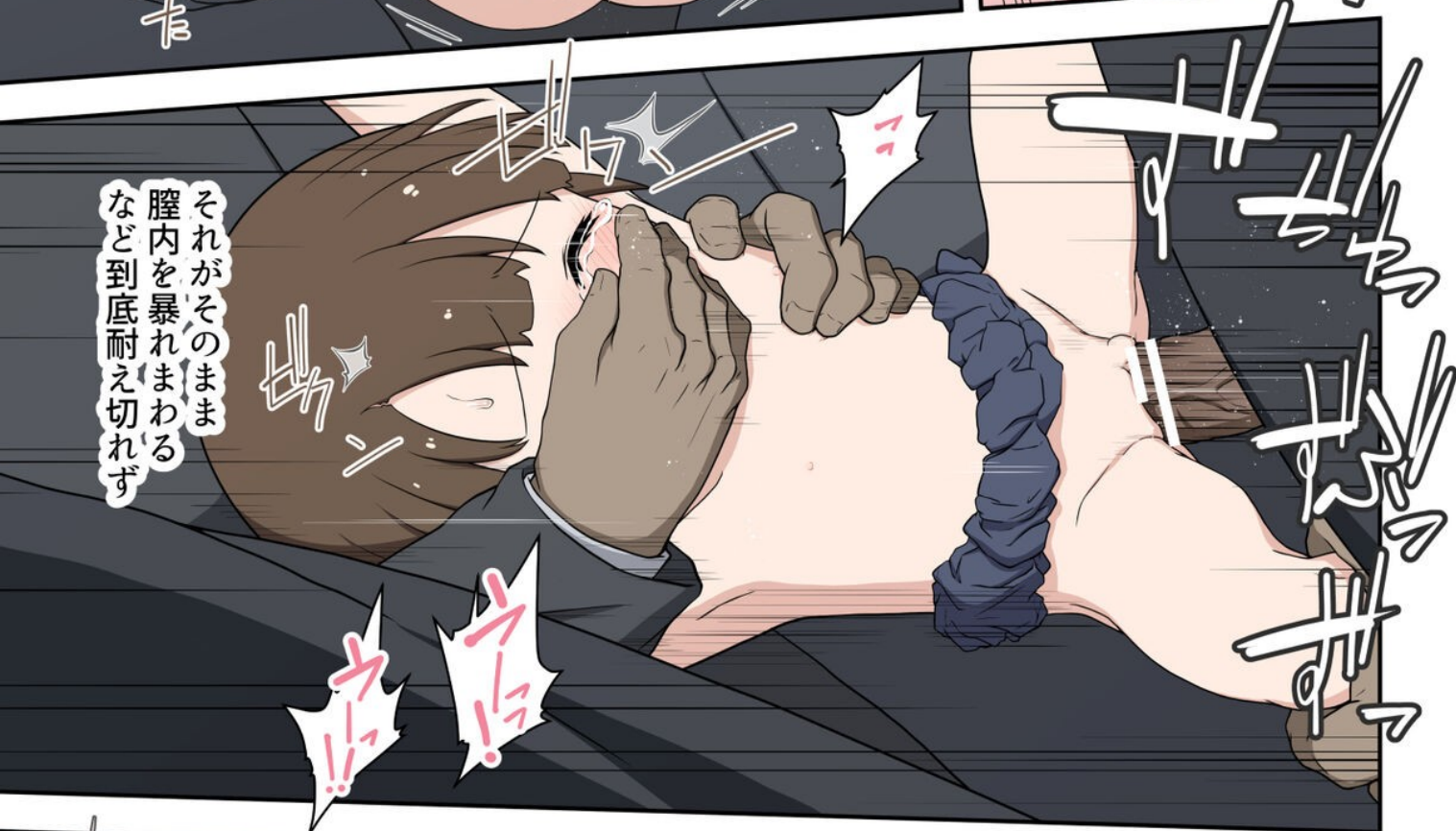
一気に一番奥まで
肉棒が叩き込まれ

少女の絶叫が
響き渡る



何をされているのか
分かっていない
少女にとっては

挿入だけでも
理解を遥かに
超える出来事で

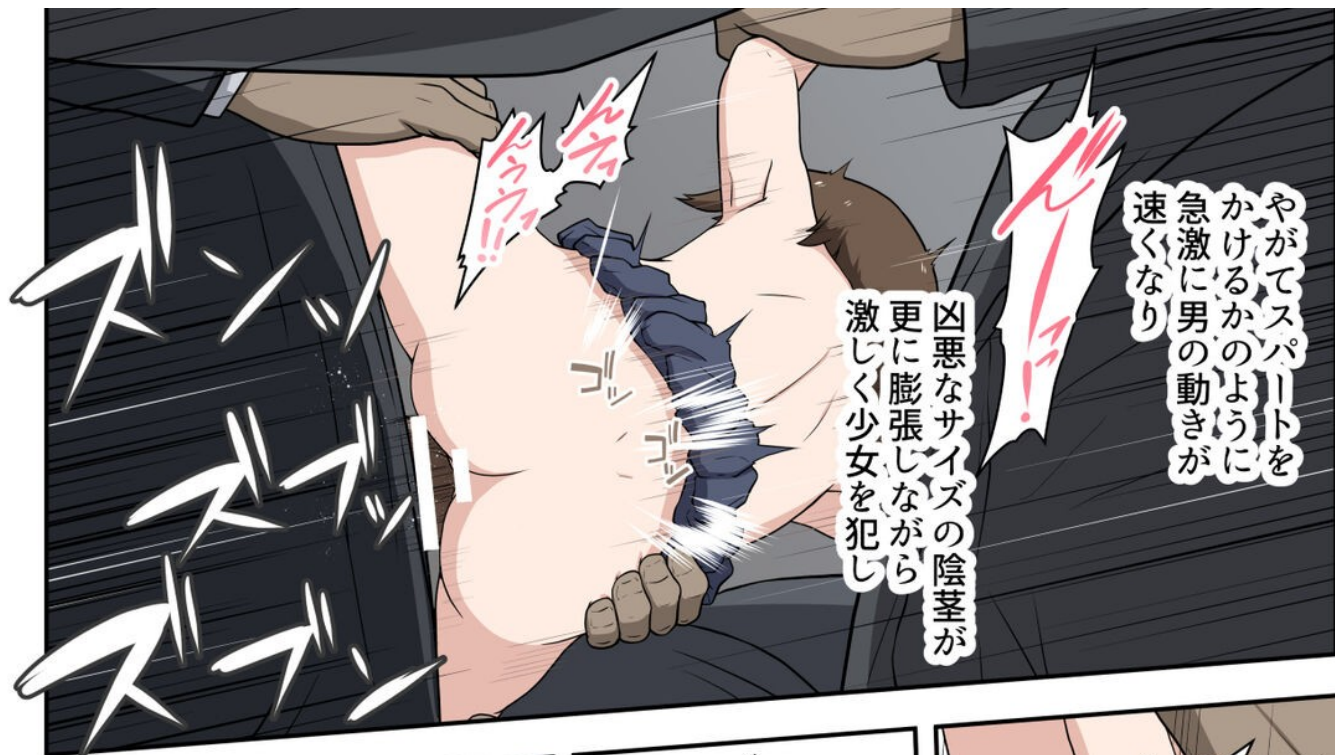


それがそのまま
膣内を暴れまわる
など到底耐え切れず



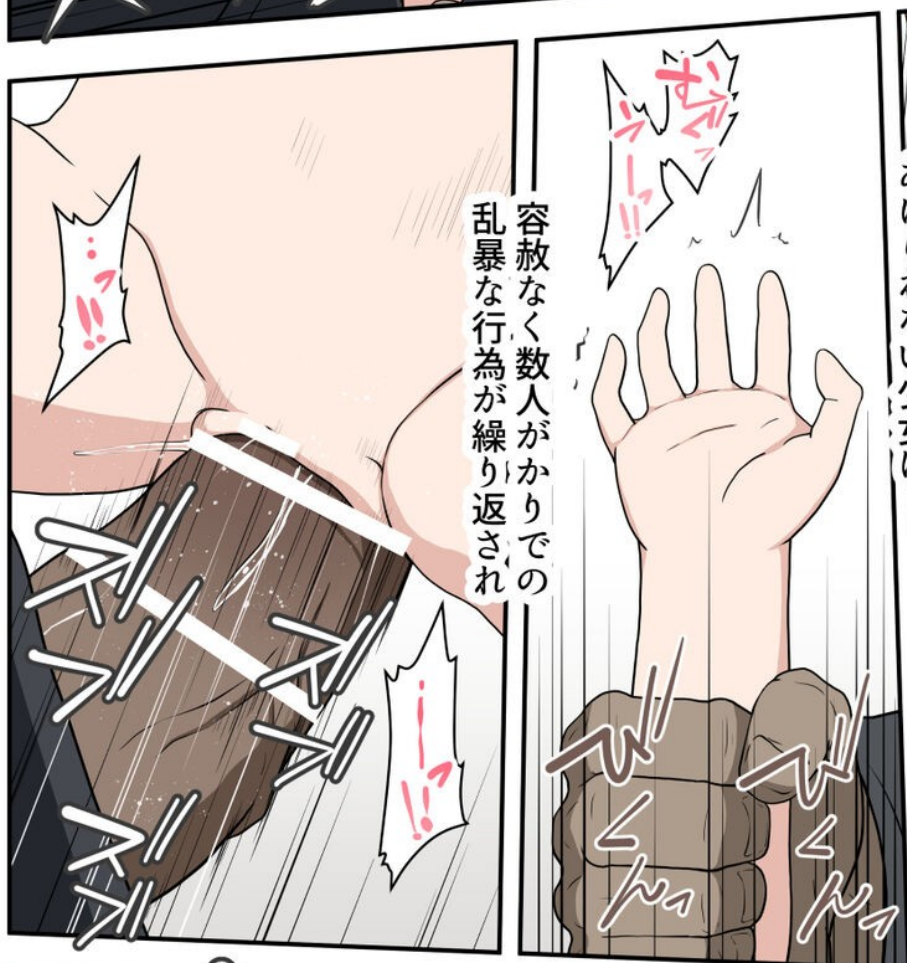
くぐもつた悲鳴が
絶え間なく車内に
響くが

容赦ないピストンは
更に加速し激しく
なっていく

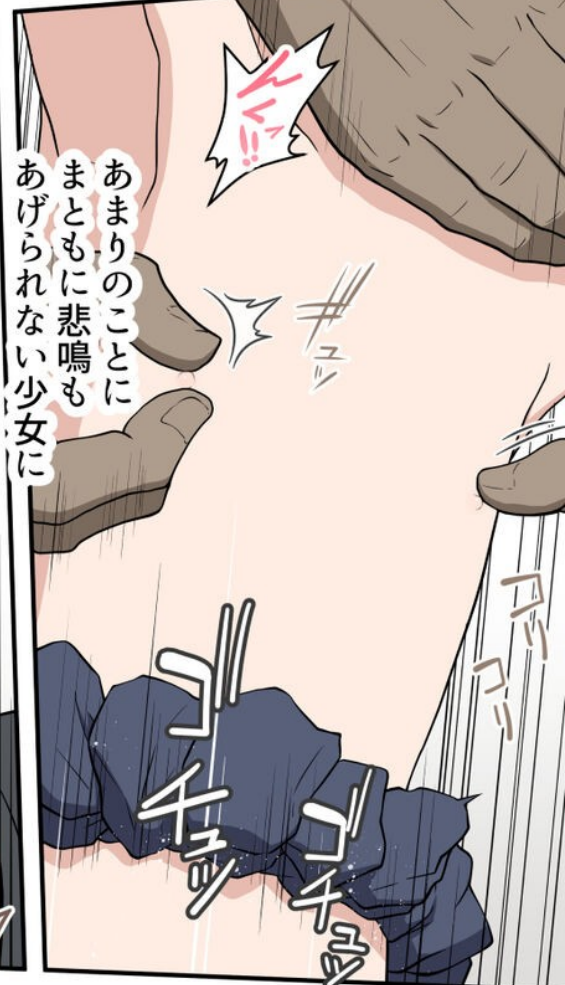


やがてスパートを
かけるかのように
急激に男の動きが
速くなり

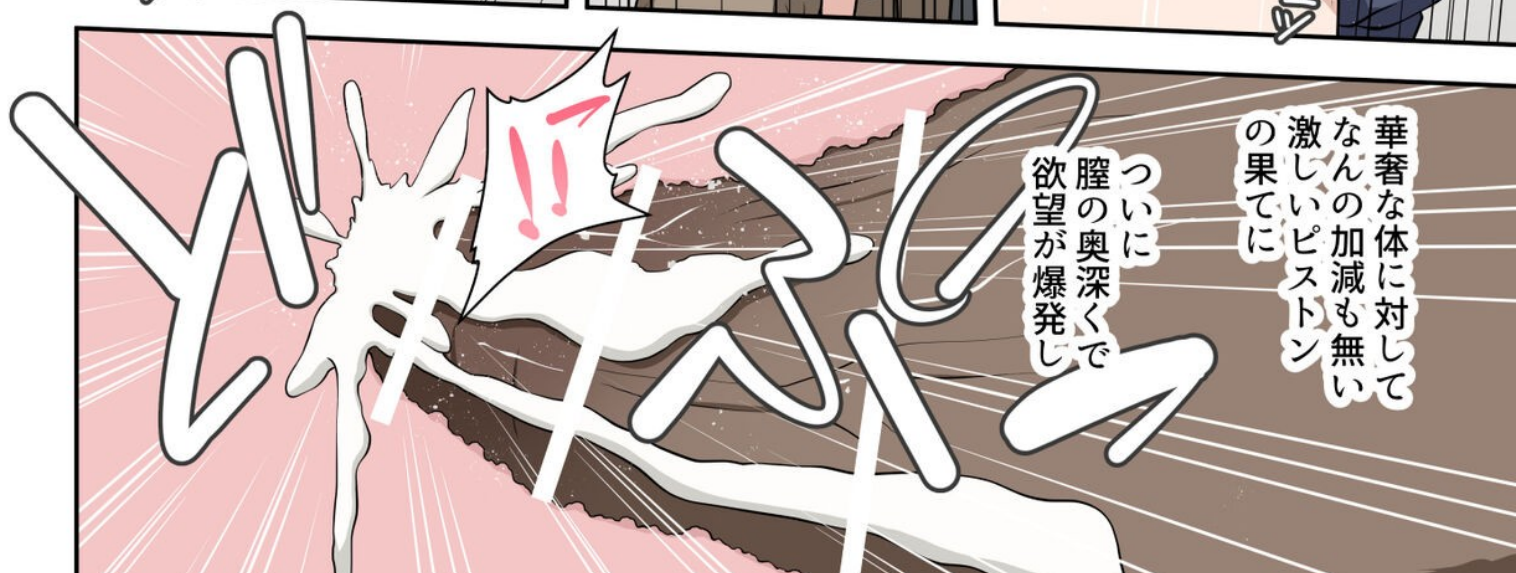
凶悪なサイズの陰茎が
更に膨張しながら
激しく少女を犯し



容赦なく数人がかりでの
乱暴な行為が繰り返され



あまりのことに
まともに悲鳴も
あげられない少女に



華奢な体に対して
なんの加減も無い
激しいピストン
の果てに

ついに
膣の奥深くで
欲望が爆発し

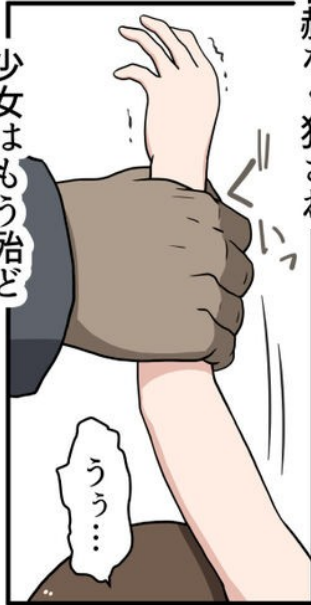


とうとう大量の精液が
少女の中に放たれる





体格差のある巨漢に
容赦なく犯され



少女はもう殆ど
体に力が入らず
放心状態だったが



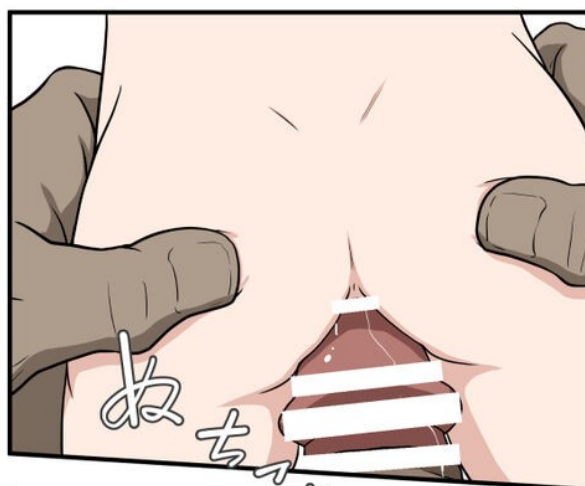
少女にとっては理解を
遥かに超えた壮絶な
出来事でも

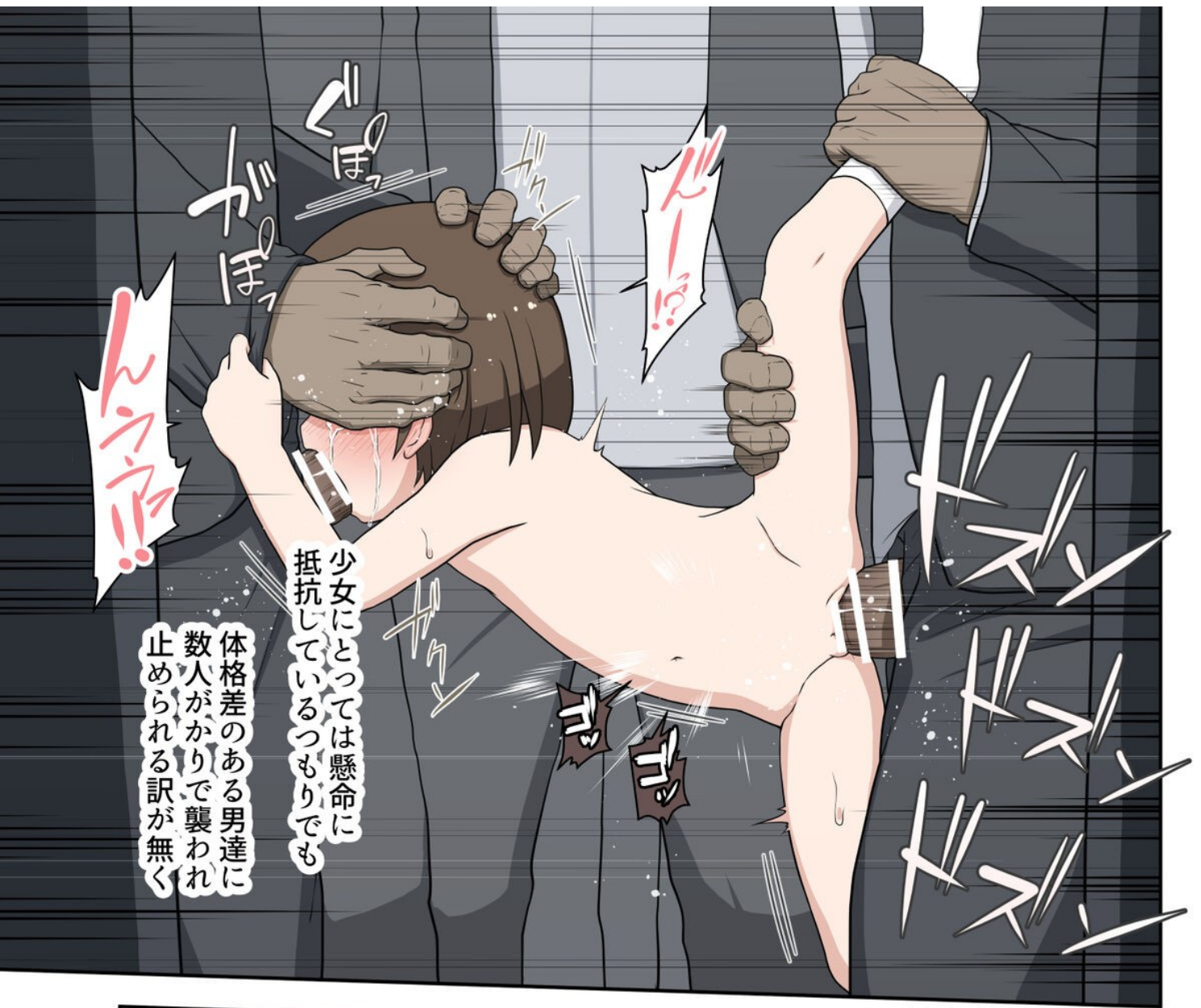
それは圧倒的人数差で
始まってしまった輪姦の
ほんの一回目に過ぎず

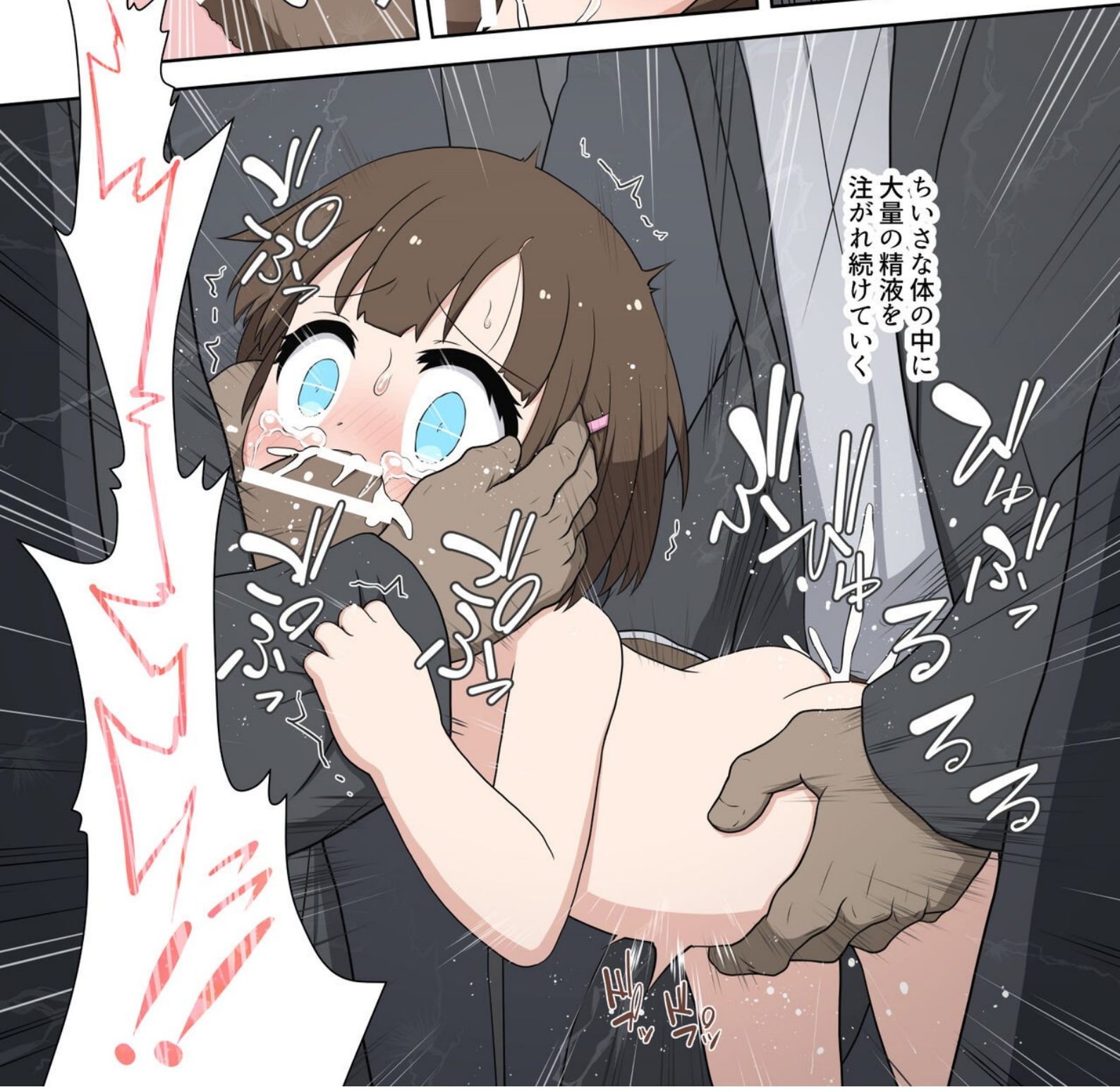
あ…
え…?

もはや衣類も殆ど奪われ
丸裸の無防備な体に

休む間もなく
更なる危機が押し寄せる







ちいさな体の中に
大量の精液を
注がれ続けていく



少女が犯されれば
犯されるほど車内の
熱狂は危険度を増し



丸裸の無防備な体に
車両中の男達が群がり



ただでさえ一方的で
休む間もない輪姦が
更に過酷なものに
なっていく



や... あっ!?

あっ!?

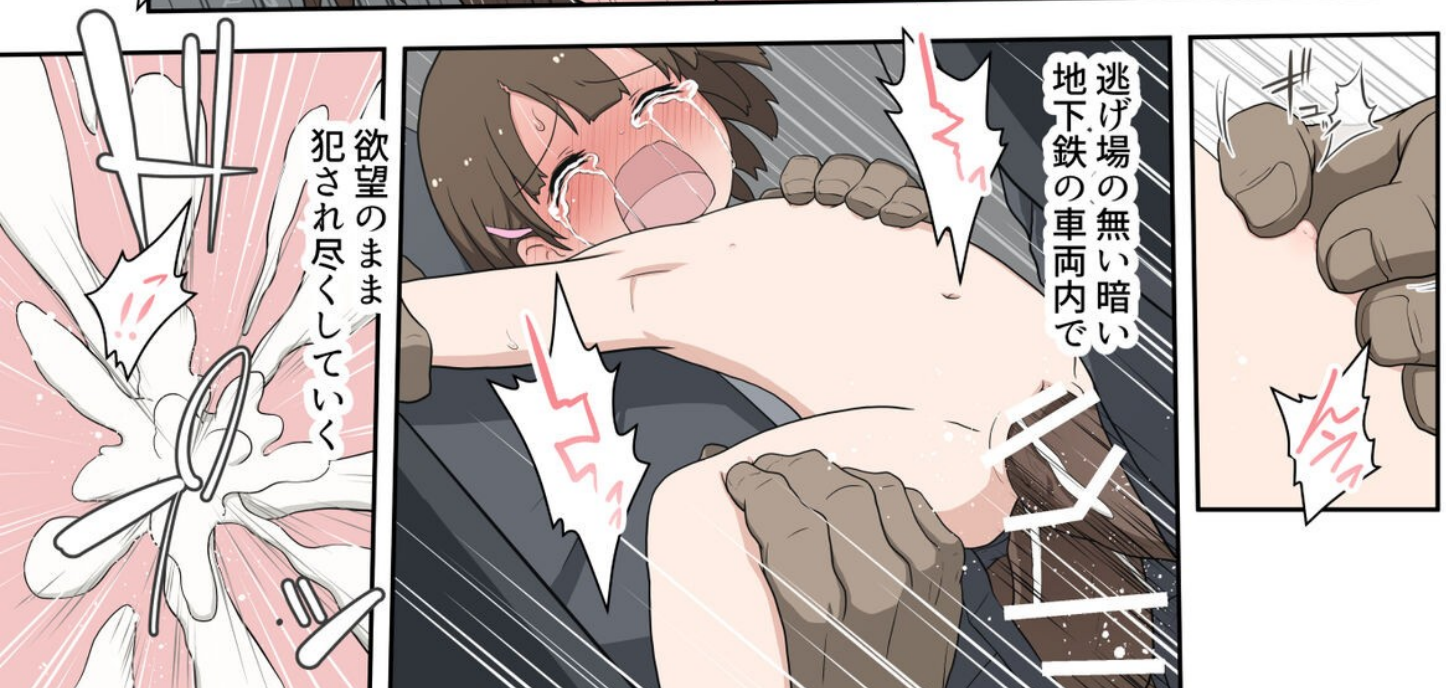
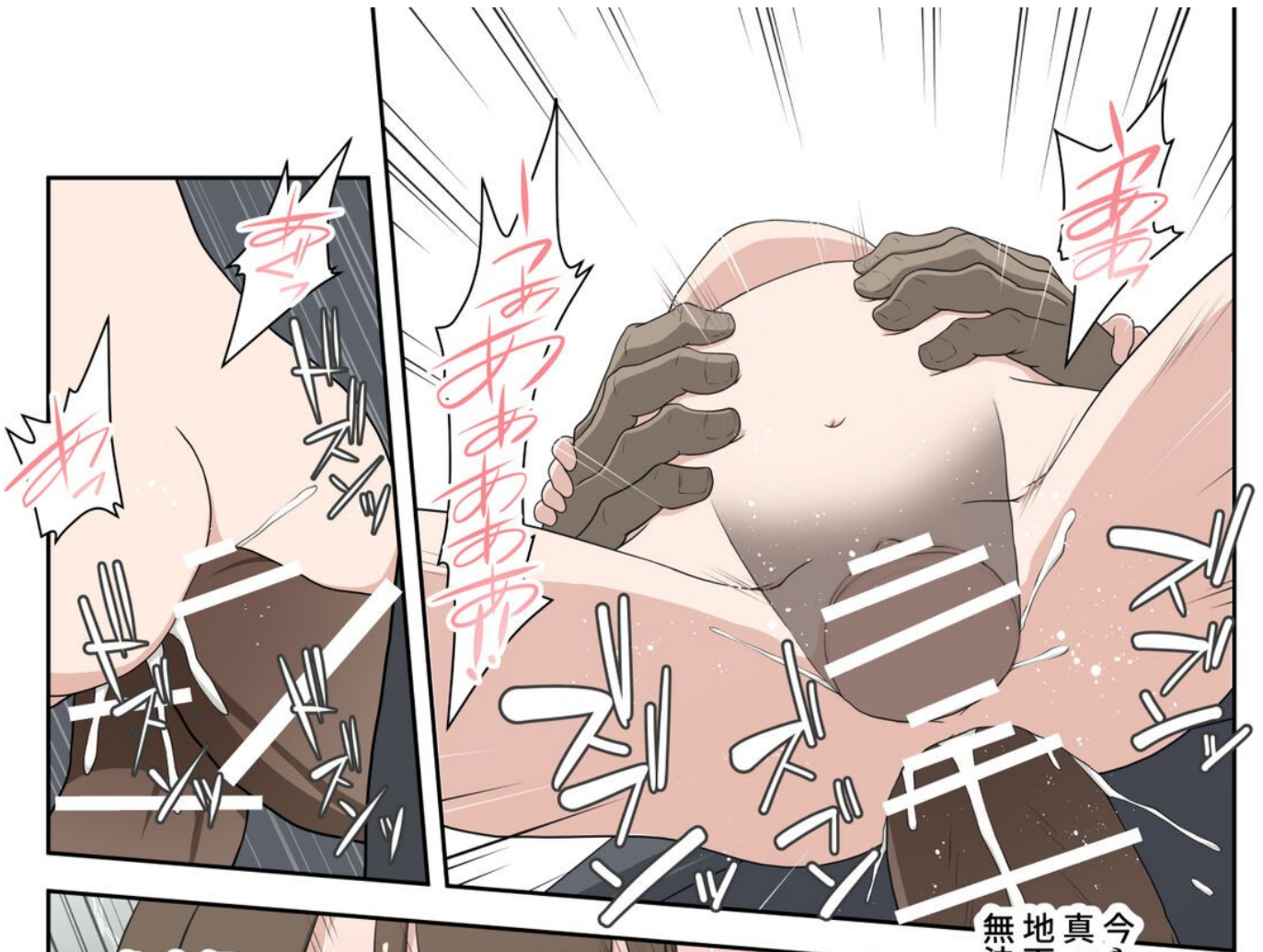
にち...



もはや挿入も一人ずつで
済まされる状況ではなく

一本でもギチギチだった
小さな下腹部にととう
巨根を二本差し込まれてしまい

無防備な体制で抱えられ
身構える事も出来なかった
少女の絶叫が響き渡る

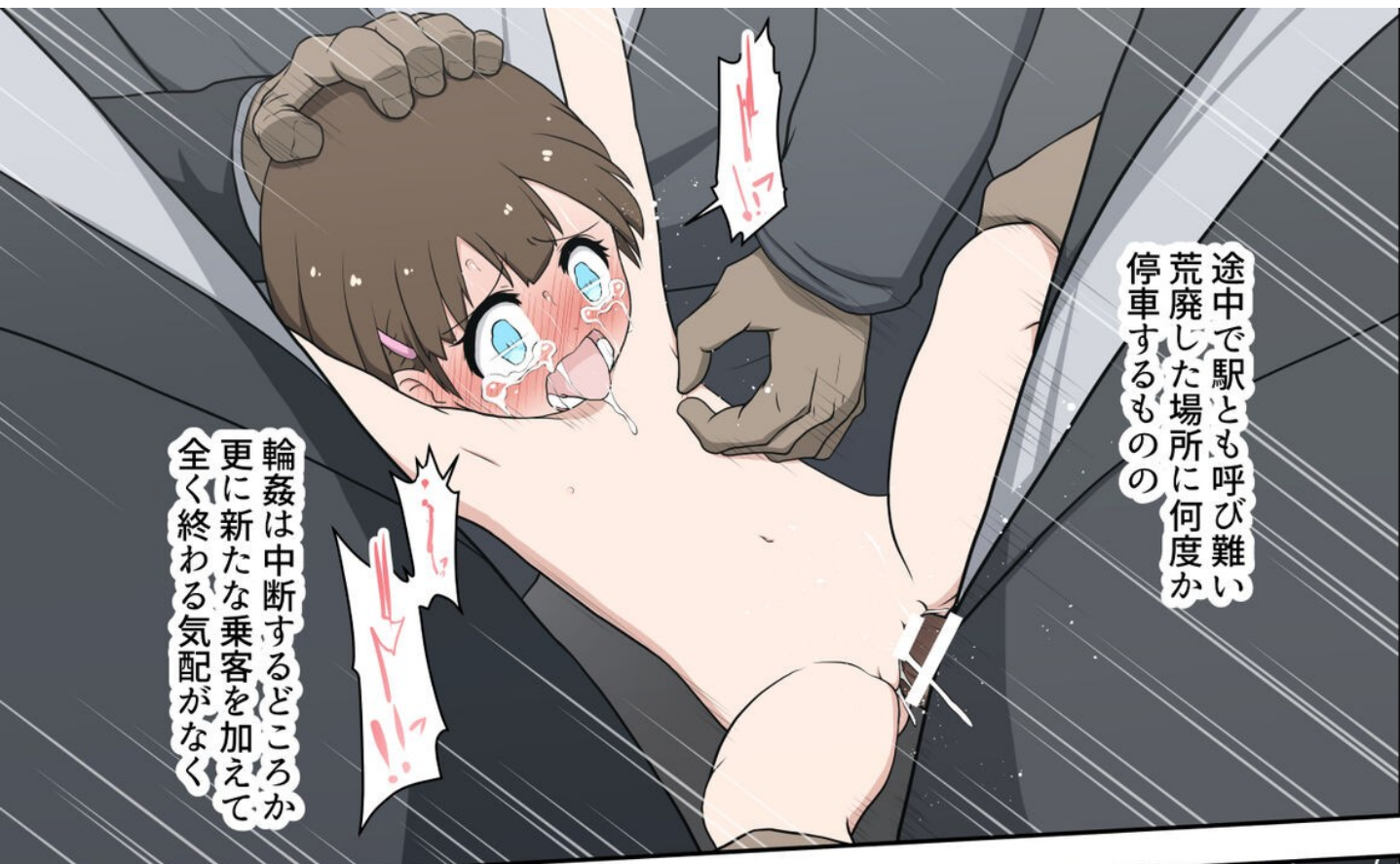


容赦なく続く
大量の中出しは
とても少女の中
に入り切らず

一組が終わるごとに
ちいさな股間から
膨大な量の白濁液が
溢れ出し

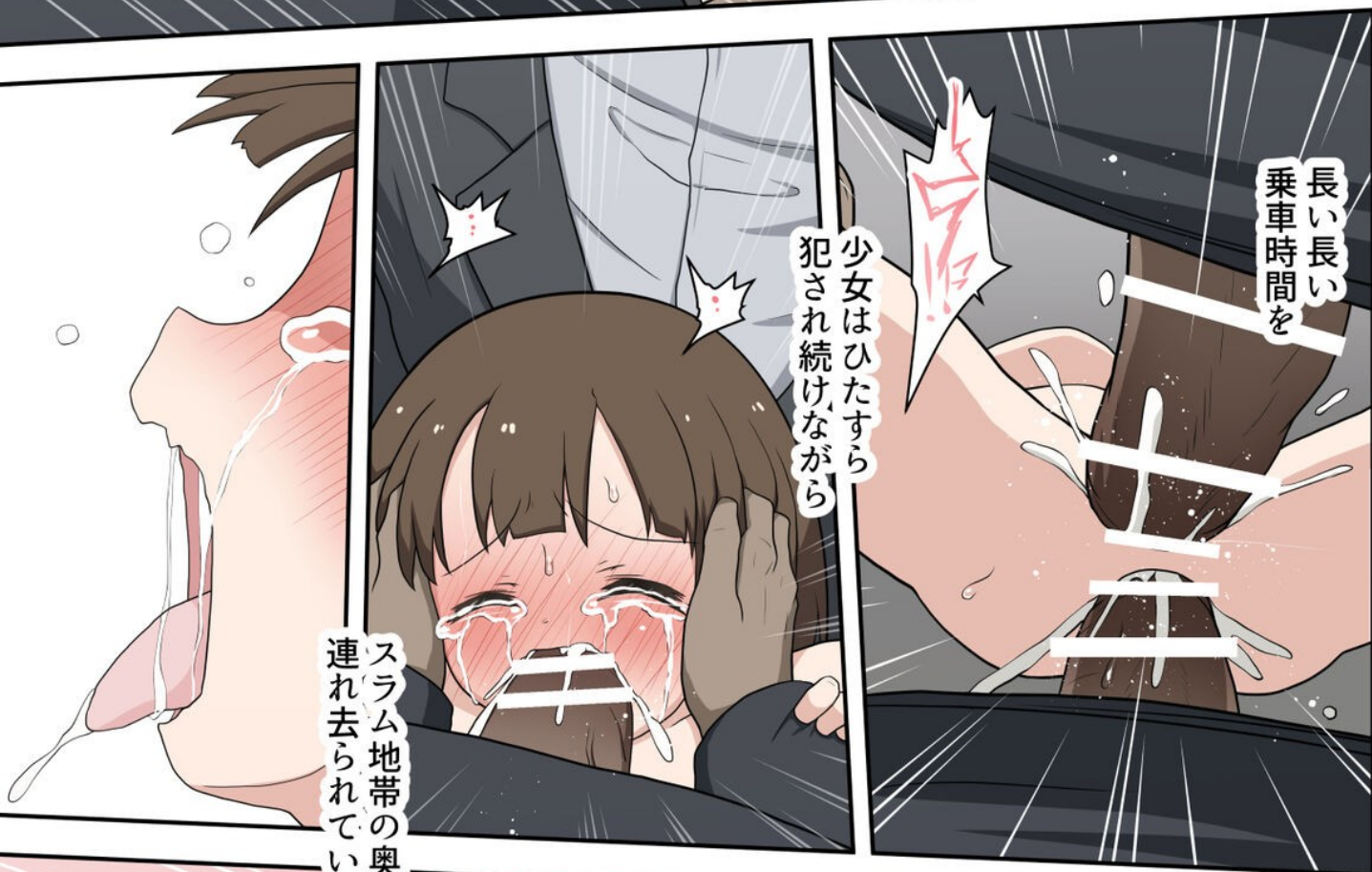
それでもなお
奪い合うように
新たな集団から
襲われ続け

華奢な体が大勢の男達に
絶え間なく蹂躪されていく



途中で駅とも呼び難い
荒廃した場所に何度か
停車するもの

輪姦は中断するどころか
更に新たな乗客を加えて
全く終わる気配がなく



長い長い
乗車時間を

少女はひたすら
犯され続けながら

スラム地帯の奥へと
連れ去られていく





少女のちいさな体には
到底受け止めきれない
膨大な量の精液が
幾度となく放たれ続け

ようやく電車が
目的地に着く頃には
もう床までドロドロに
なっており



途方も無い数の男達に
犯され続けた輪姦の
凄まじさを物語っていたが

違法な電車の終着駅が
安全である筈も無く



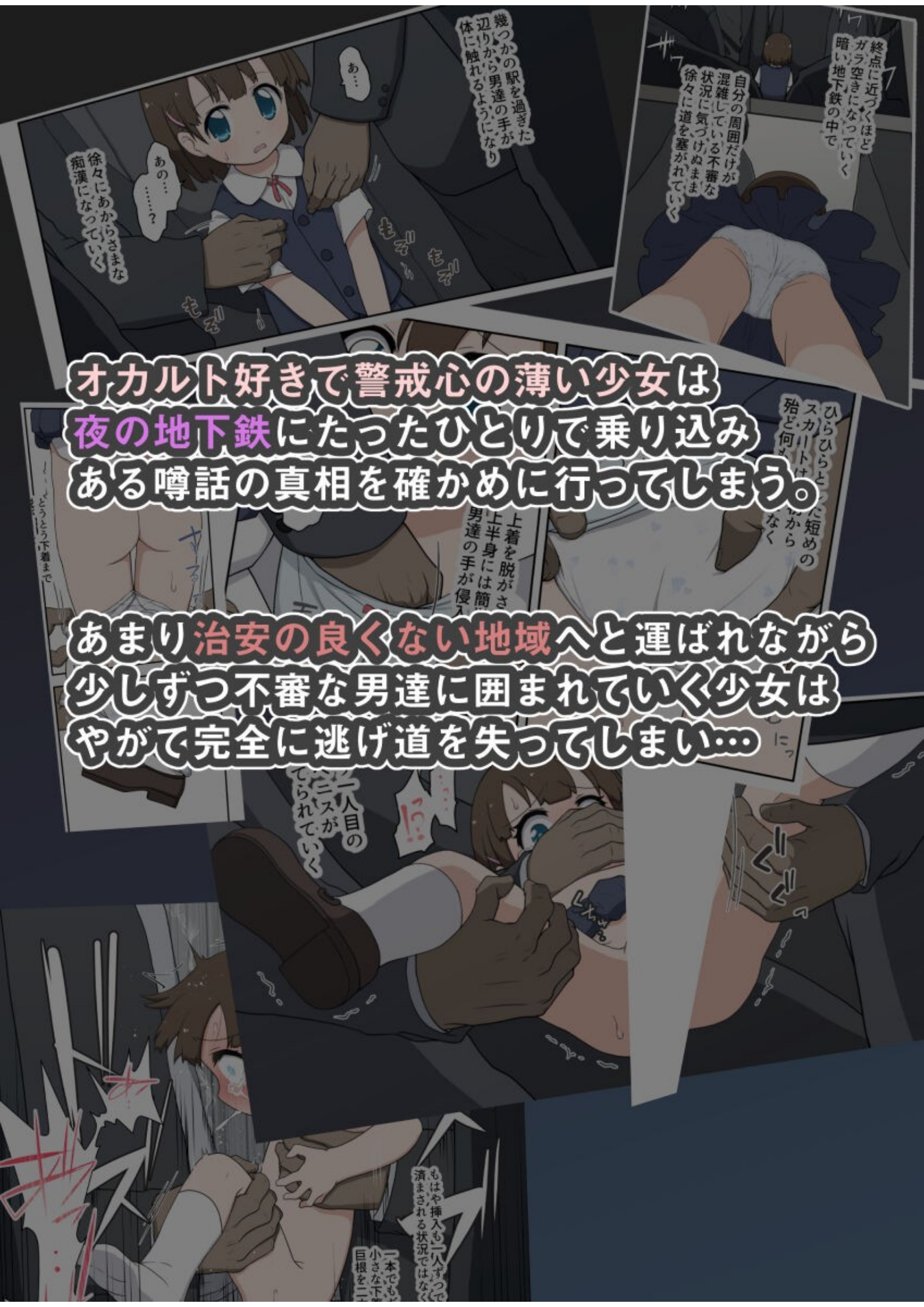
ドアが開いた先に
待っているのは
解放とは真逆の
出来事で

更に過酷で果てしない
絶望的な輪姦が
待ち受けていた！

無数の無法者達が蠢く
薄暗い地下施設へと
攫われていく少女には

無法地帯行き集団痴漢列車

作者：偽もの (<http://pixiv.me/mbby>)
製作年：2021年



オカルト好きで警戒心の薄い少女は
夜の地下鉄にたったひとりで乗り込み
ある噂話の真相を確かめに行ってしまう。

あまり治安の良くない地域へと運ばれながら
少しずつ不審な男達に囲まれていく少女は
やがて完全に逃げ道を失ってしまい...